

令和4年度 とっとり学力・学習状況調査 【鳥取市】 調査結果概要 (中1 義7)

■本調査の特長

- ◇ 学力の伸びを把握することができます。
- ◇ 学力の伸びに関わる学習方略や非認知能力を把握することができます。

■学力のレベルと伸び

	調査するレベルの範囲	市				県		
		レベル	伸び	伸びた生徒の割合(%)	平均正答率(%)	レベル	伸び	平均正答率(%)
【令和4年度】中1国語	4～10	7-A	1	67.3	57.4	7-A	1	57.5
【令和3年度】小6国語	3～9	7-B	1	63.2	59.1	7-B	1	59.0
【令和4年度】中1数学	4～10	7-B	2	72.8	57.8	7-A	2	58.3
【令和3年度】小6算数	3～9	6-A	3	82.6	58.9	7-C	4	59.4

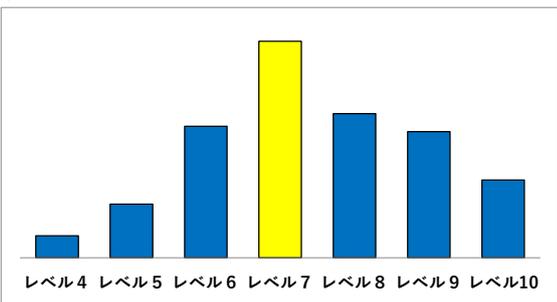
- ◇ 正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかで学力のレベルを判断しています。
- ◇ 学力のレベルは1から12まであり、1つのレベルはさらに3層に分かれています(1-Cから12-Aまで)。
- ◇ 学力のレベルがあがるほど難しい問題を解く力があります。

- 学力のレベルは、国語が7-Bから7-Aに1段階、数学が6-Aから7-Bに2段階あがっている。
- 国語は67.3%、数学は72.8%の生徒で学力が伸びている。

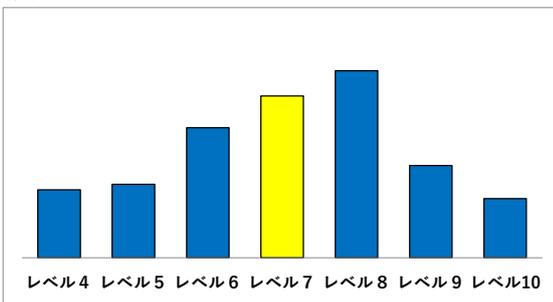
■学力のレベルの状況

■ : 市平均

国語



数学

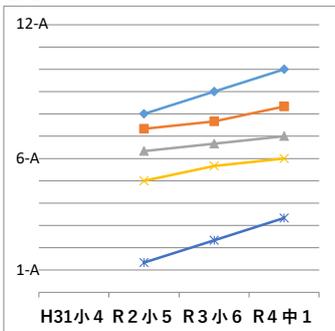


- 国語では、数学と比べてレベル8の生徒の割合が小さい。
- 数学では、レベル8の生徒の割合が大きいものの、国語と比べてレベル4の生徒の割合が大きい。

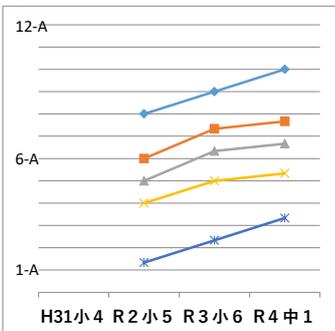
■学力の伸びの状況

- ◆ : 最大値 (最も学力が高い生徒が属する学力のレベル)
- : 75%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる生徒が属する学力のレベル)
- ▲ : 中央値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる生徒が属する学力のレベル)
- × : 25%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる生徒が属する学力のレベル)
- * : 最小値 (最も学力が低い生徒が属する学力のレベル)

国語



数学



- 国語では、令和3年度調査からの中位層(中央値)、中下位層(25%値)の傾きが他の層と比べて緩やかである。
- 数学では、令和3年度調査からの中上位層(75%値)、中位層(中央値)、中下位層(25%値)の傾きが他の層と比べて緩やかである。

■カテゴリー別正答率 (%)

+1.1ポイント以上

-1.1ポイント以下

国語	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 中1	60.5	57.0	52.6	55.6	59.7	54.5	61.7	45.7	44.2
県 中1	60.8	57.2	52.3	55.5	59.9	54.3	62.0	45.4	43.4
県 中1との比較 (±ポイント)	-0.3	-0.2	0.3	0.1	-0.2	0.2	-0.3	0.3	0.8

- 全ての項目の正答率が県とほぼ同じである。
- 教科の領域等では、「話すこと・聞くこと、書くこと」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「短答式」と「記述式」の正答率が「選択式」と比べて低い。

数学	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 中1	61.8	51.7	57.7	57.8	58.5	50.6	56.0	60.2	45.3
県 中1	62.0	52.5	57.8	59.1	59.0	51.2	56.3	60.8	47.1
県 中1との比較 (±ポイント)	-0.2	-0.8	-0.1	-1.3	-0.5	-0.6	-0.3	-0.6	-1.8

- 教科の領域等の「データの活用」で1.3ポイント、問題形式の「記述式」で1.8ポイント、県の正答率を下回っている。
- 教科の領域等では、「図形」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

■主体的・対話的で深い学びの実施、学習方略、非認知能力

	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(参考値)	自制心(参考値)
【令和4年度】市 中1	3.9	3.4	3.6	3.4	3.7	3.9	3.1	3.8
【令和3年度】市 小6	3.8	3.2	3.4	3.3	3.6	3.8		3.7
【令和3年度】市 小6との比較	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1		0.1
【令和4年度】県 中1	4.0	3.5	3.6	3.5	3.8	3.9	3.1	3.8
【令和4年度】県 中1との比較	-0.1	-0.1	0.0	-0.1	-0.1	0.0	0.0	0.0

- ◇ 数値は、質問紙調査において生徒が5段階（1～5）で回答した結果を集約したものです。
- ◇ 数値が高いほど、よい数値と捉えることができます。
- ◇ 学習方略：生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）
 - 柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動
 - プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
 - 作業方略：ノートに書く、声を出すといった作業を中心に学習を進める活動
 - 認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
 - 努力調整方略：苦手などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
- ◇ 非認知能力：自分の感情をコントロールして行動する力があるなどの性格的な特徴
 - 自己効力感：自分への自信、自己肯定力 など
 - 自制心：イライラしない、心の平静を保てる など

- 「主体的・対話的で深い学びの実施」の数値は昨年度とほぼ同じであるものの、5段階においては比較的高い。
- 学習方略の数値は昨年度とほぼ同じである。「認知的方略」「努力調整方略」の数値が他の項目と比べて高い。
- 非認知能力の数値は県と同じである。「自制心」の数値が他の項目と比べて高い。

令和4年度 とっとり学力・学習状況調査 【鳥取市】 調査結果概要（中2義8）

■本調査の特長

- ◇ 学力の伸びを把握することができます。
- ◇ 学力の伸びに関わる学習方略や非認知能力を把握することができます。

■学力のレベルと伸び

	調査するレベルの範囲	市				県		
		レベル	伸び	伸びた生徒の割合(%)	平均正答率(%)	レベル	伸び	平均正答率(%)
【令和4年度】中2国語	5～11	8-B	1	63.1	55.6	8-B	1	55.2
【令和3年度】中1国語	4～10	8-C	2	67.6	59.5	8-C	2	59.7
【令和4年度】中2数学	5～11	8-C	2	67.4	51.1	8-C	2	52.4
【令和3年度】中1数学	4～10	7-B	1	70.3	59.8	7-B	1	60.2

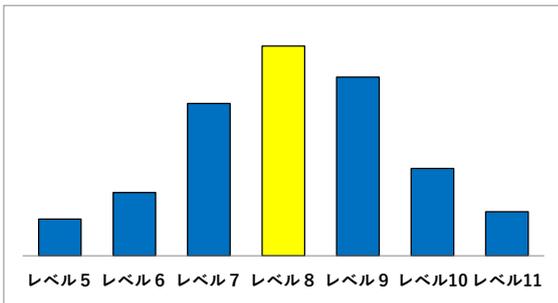
- ◇ 正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかで学力のレベルを判断しています。
- ◇ 学力のレベルは1から12まであり、1つのレベルはさらに3層に分かれています（1-Cから12-Aまで）。
- ◇ 学力のレベルがあがるほど難しい問題を解く力があります。

- 学力のレベルは、国語が8-Cから8-Bに1段階、数学が7-Bから8-Cに2段階あがっている。
- 国語は63.1%、数学は67.4%の生徒で学力が伸びている。

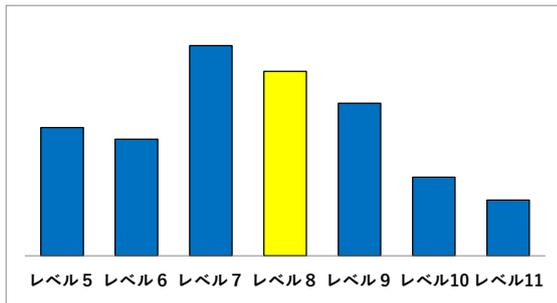
■学力のレベルの状況

■ : 市平均

国語



数学

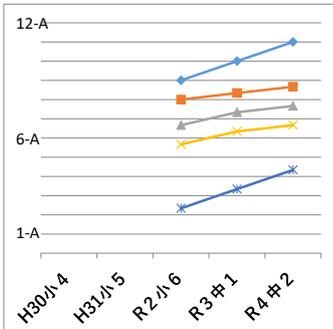


- 国語では、レベル10とレベル11の生徒の割合が、レベル8とレベル9の生徒の割合と比べて小さい。
- 数学では、レベル7の生徒の割合が最も大きく、国語と比べてレベル5の生徒の割合も大きい。

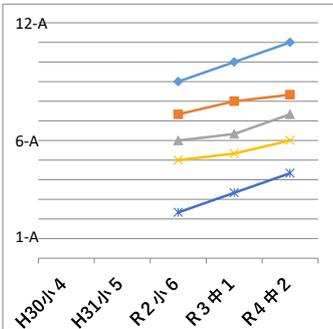
■学力の伸びの状況

- ◆ : 最大値（最も学力が高い生徒が属する学力のレベル）
- : 75%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる生徒が属する学力のレベル）
- ▲ : 中央値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる生徒が属する学力のレベル）
- × : 25%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる生徒が属する学力のレベル）
- * : 最小値（最も学力が低い生徒が属する学力のレベル）

国語



数学



- 国語では、令和3年度調査からの中上位層（75%値）、中位層（中央値）、中下位層（25%値）の傾きが他の層と比べて緩やかである。
- 数学では、令和3年度調査からの中上位層（75%値）の傾きが他の層と比べて緩やかである。

■カテゴリー別正答率 (%)

+1.1ポイント以上

-1.1ポイント以下

国語	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 中2	52.7	59.7	52.8	59.2	54.9	56.9	57.7	48.5	52.0
県 中2	52.7	59.3	52.7	57.9	54.8	56.0	57.8	46.2	51.3
県 中2との比較 (±ポイント)	0.0	0.4	0.1	1.3	0.1	0.9	-0.1	2.3	0.7

- 教科の領域等の「読むこと」で1.3ポイント、問題形式の「短答式」で2.3ポイント、県の正答率を上回っている。
- 教科の領域等では、「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと、書くこと」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて高い。
- 問題形式では、「短答式」の正答率が他の項目と比べて低い。

数学	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 中2	53.6	45.9	54.7	48.3	52.1	43.5	48.5	54.4	37.0
県 中2	54.6	47.6	55.6	50.5	53.6	43.7	50.1	55.5	36.1
県 中2との比較 (±ポイント)	-1.0	-1.7	-0.9	-2.2	-1.5	-0.2	-1.6	-1.1	0.9

- 教科の領域等の「データの活用」や問題形式の「選択式」など、5項目で1.1ポイント以上、県の正答率を下回っている。
- 教科の領域等では、「図形」「データの活用」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

■主体的・対話的で深い学びの実施、学習方略、非認知能力

	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(参考値)	向社会性
【令和4年度】市 中2	3.8	3.3	3.4	3.4	3.6	3.7	2.9	2.9
【令和3年度】市 中1	3.9	3.3	3.5	3.5	3.6	3.9	3.0	
【令和3年度】市 中1との比較	-0.1	0.0	-0.1	-0.1	0.0	-0.2	-0.1	
【令和4年度】県 中2	3.8	3.3	3.5	3.4	3.6	3.7	2.9	3.0
【令和4年度】県 中2との比較	0.0	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.1

- ◇ 数値は、質問紙調査において生徒が5段階（1～5）で回答した結果を集約したものです。
- ◇ 数値が高いほど、よい数値と捉えることができます。
- ◇ 学習方略：生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）
 - 柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動
 - プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
 - 作業方略：ノートに書く、声を出すといった作業を中心に学習を進める活動
 - 認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
 - 努力調整方略：苦手などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
- ◇ 非認知能力：自分の感情をコントロールして行動する力があるなどの性格的な特徴
 - 自己効力感：自分への自信、自己肯定力 など
 - 向社会性：相手の気持ちを考える、親切にする など

- 「主体的・対話的で深い学びの実施」の数値は昨年度とほぼ同じであるものの、5段階においては比較的高い。
- 学習方略の数値は昨年度とほぼ同じである。「認知的方略」「努力調整方略」の数値が他の項目と比べて高い。
- 非認知能力の数値は県とほぼ同じであるものの、「自己効力感」「向社会性」ともに5段階においては比較的低い。